東京　明治十七年四月十七日　木曜日　第六百三十五號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○警視廳布達甲第十一號

本年(三月)第九號公布質屋取締條例第十八條ニ依リ細則別紙之通之ヲ定ム

右布達候事

明治十七年四月十六日　警視總監大迫貞清

質屋取締條例細則　△印ハ朱書

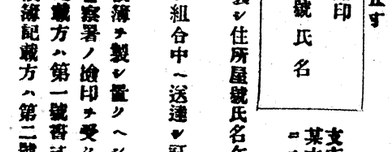
第一條　質屋營業ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ組合取締加印ノ上區ハ區長郡ハ戸長ノ奥印ヲ受ケ正副二通ヲ警視廳ヘ差出ス可シ其支店ヲ開設セントスル者モ亦之レニ準シ出願ス可シ

第二條　屬締住所氏名ヲ轉換シ又ハ廢業シタルトキハ第一條ノ手續ニ依リ警視廳ヘ屆出可シ但製宜書區郡便ヲ以テスルモ妨ケナシ

第三條　質屋ハ警察署一管内ヲ一組トシ正副取締ヲ置キ諸事取締ヲ爲ス可シ但組合ハ人數ノ多寡ニ依リ警視廳ノ認可ヲ受ケ他ノ警察署管内ト合併スルヲ得

第四條　質屋ハ本支店共左ノ看板ヲ製シ取締ノ焼印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲ク可シ但廢業シタル時ハ取締ニ於テ其焼印ヲ消滅ス可シ

曲尺長サ二尺五寸



支店ハ(住所何某支店)ト肩書ニスヘシ

第五條　取締ハ組合名簿ヲ製シ住所屋號氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ取置ク可シ

第六條　取締ニ關スル諸達ヲ組合中ヘ送達シ証印ヲ取置ク可シ

第七條　質屋ハ左ノ各種ノ帳簿ヲ製シ置クヘシ但品臨帳ヲ除クノ外新調ノ都度所轄警察署ノ檢印ヲ受ク可シ

第一　質物臺帳　此帳簿記載方ハ第一號書式ニ據ル可シ

第二　流質物賣拂帳　此帳簿記載方ハ第二號書式ニ據ル可シ

第三　物品預帳　此帳簿記載方ハ第三號書式ニ據ル可シ

第四　品臨帳　此帳簿ニハ品臨書ノ散逸セサル樣順次綴リ置クヘシ

第八條　質屋ハ質物ノ流期ヲ定メ其取締ヨリ警視廳ニ屆出可シ

第九條　質物ノ流期ニ至ラントスルトキハ必ス其筋ヲ質入主ヘ通報スヘシ又流質物賣却ノ際所轄警察署ニ差出スヘキ物品目錄ハ第四號書式ニ從フ可シ

第十條　左ノ事項ハ質入住ノ見易キ場所ニ掲示ス可シ

一　流質期限

二　利子ノ割合

三　質物ノ失難ニ罹リタルトキノ處辨方　(未完)

○東京府告示乙第六十六號

當府及神奈川埼玉群馬栃木茨城千葉の六縣聯合を以て來る明治十八年三月一日より日數五十日間千葉縣下千葉町ゟ於て別冊規則に依り米麥大豆綿茶菜種烟草共進會相開候條此旨告示候事

(別冊之畧す)

明治十七年四月十六日　東京府知事芳川顯正

叙任

○明治十七年四月十五日

元老院權大書記官正六位　金子堅太郎

任太政官權大書記官兼元老院權大書記官

時事新報

政府ハ既成ノ鉄道ヲ人民ニ賣渡シ其代金ヲ以テ別ニ新線路ヲ敷設スヘシ

目下日本ノ富實ヲ增スノ道ハ鉄道ヲ敷設スルヨリ善キハナシトハ我輩ノ固ク信シテ疑ハザル所ニシテ又常ニ日本全國ノ有志者ニ勸告辨說シテ止ムヿヲ知ラザル所ナリ差シ鉄道ノ効用ハ万有無量ノモノニシテ人事ノ一部分ヲ限リ場所ノ一隅ヲ限リテ始メテ其利ヲ見ルガ如キ甚タ狹隘ナル性質ノモノニアラズ、春雨連日人皆眉ヲ顰メテ不勝ノ天氣ナリト陸ヤシ傍ニ農家ハ甘雨飴ノ如キヲ喜ビ限メ今年ノ豐作ヲトシテ隣人ト相祝スルアリ、盛暑燥クガ如ク日色人ヲ射テ仰ギ看ル可ラズ城中ノ人皆太陽ノ驕度ヲ減却スルノ工風モガナト焦慮ノ所構水鄰澤畔ノ農家ハ連旬ノ旱魃奉ニシテ川添紹田ノ水被リヲ絶レタルヲ喜ビ太陽ノ光力今少シ劇烈ニシテ紹田ノ水ヲ洗盡センメンヿモガナト厭願スルアリ人生ニ必要ナル水又ハ日光ノ如キスラコレヲ享受スル人ノ地位ノ異ナルガタメニ萬喜憂ヲ同クスルヿ能ハズ一方ニ喜ブ者アレバ一方ニ憂ル者アリテ全面一書ニ嗟喜ブヲ知テ要フルヲ知ラサル樣ノ事ハ人事上極メテ稀有ノ例ナルニ獨リ鉄道ハ則チ然ラズ百利ヲ見テ一害ヲ見ズ農工商學ニ政治ニ兵事ニ又學術ニ社會ノ人事一モ鉄道ノ利ノ被及セザル所ナク又一モ其害ヲ被ラシムルヿナシ鉄道ノ人間ニ必要ナル其功ヲ水ト日光トニ比スルモ敢テ大ニ讓ル所ナカルベシ

然ルニ此必要具ヲ求ムルノ費用頗ル洪大ニシテ兎角一個人ノ資力ニ及ハズ必ズヤ多數ノ人ヲ結合シテ其協同力ニ頼ラザルベカラザルモノアルガタメニヤ我日本人ガ從來文明富實ヲ熱望スルノ誠心ノ大ナルニモ拘ハラズ國内ニ鉄道ノ敷設尙ホ甚タ僅少ナルハ國ノ爲メ遺恨コレニ過ルモノナキナリ蓋シ我日本人ハ合資會社ノ法ヲ以テ人間ノ大事業ヲ興スノ事ニ習ハズ個々ニ小資財ヲ投シテ悠々ニ小事業ヲ營ムヲ以テ最モ安全ノ法ト心得ル者多數ナルガ故ニ偶マ有志者ノ鉄道敷設ヲ首唱シ其利ヲ說ク者アリテ雖ヒ世間コレニ應スル者甚タ少ナク僅カニ三五百万ノ資金ヲ集メントスルヤ非常ノ勞力ト時間トヲ消費シテ尙ホ未タ其成ルヲ見ザルノ例甚タ多シ例ヘバ東海道ノ如キ山陽道鉄道ノ如キ或ハ又東京ヨリ越後ニ達スルノ線路・大坂ヨリ越前加賀越中ニ達スルノ線路ノ如キハ其効用ノ著シクシテ利益ノ大ナル十目十指ノ議論シテ疑ハザル所ナリト雖ヒ直接ニ其便益ニ浴スル沿道ノ資産家スラ急ニ工事ニ着手セントスル程ノ熱心モナキハ畢竟篤同シテ力ヲ致スノ習慣ニ乏シキガタメナルベシ依テ我輩ハ目下ノ欠具ヲ補ハスルノ一法トシテ左ノ事ヲ申出スベシ

明治五年以來我日本政府ニ於テ自カラ敷設セシ所ノ鉄道既ニ六十里ニ近ク其具業費用モ前後合シテ千五百万圓計リモアルベシ政府ハ此既成鉄道ヲ取テ人民ニ讓渡シ其代金ヲ以テ他ノ新線路ヲ敷設スルノ費用ニ供シ隨テ成レバ隨テ賣リ到底國内重要ノ線路總テ竣功ノ時ニ至ラザレバ止マズト覺悟スベシ而シテ官設ノ鉄道ヲ人民ニ讓渡スノ法二樣アリ一ハ其線路鉄道ノ實價何程ト先ヲ何人何會社ヲ論セズ所望ノ者ニコレヲ賣渡シ全ク政府ノ關係ヲ絶ツコト一ハ其線路鉄道ノ價何程ト定メタル上ニコレヲ五十圓久ハ百圓ノ株金何万個ヨリ成立ツモノト爲シ人民ニ向テ其株券ヲ賣渡シ官民共同ノ鉄道會社ヲ設ルヿ即チ是ナリ第一ノ法ニ從フトキハ鉄道全体ヲ擧ケテ悉クコレヲ賣渡スモノニシテ其事甚タ簡單ナリト雖ヒコレヲ賣受ケントスル人民ノ方ニテハ先ツ同志ヲ募リテ一會社ヲ設ケ其株金以テ鉄道ヲ買フニ足ルモノト爲ルニアラザレバ賣買授受ノ事ヲ遂ルヿ能ハズ斯ル會社ヲ創設スルハ他ノ新鉄道ヲ敷設セントテ新會社ヲ興スモノニ比スレハ頗ル容易ナリト雖ヒ兎角ニ一樞メニ數百万圓ノ金ヲ集ムルノ必要アル以上ハ今ノ日本ノ國柄ニ於テ强チ容易ノ事ト云フベカラズ故ニ第一ノ法ニ於テ實行上尙ホ不安心ノ点モアラバ我輩ハ更ニ一歩ヲ退ケテ第二ノ法ニ從ハント欲スルナリ即チ某鉄道ノ所有權ヲ何万株ト爲シ一株ヲ何圓ト定メ株主タラント欲スル者ハ何人ニテモ政府ニ來リテ此株券ヲ買入ルヽヿヲ得、利益分配役員撰任等ノ法ハ尋常ノ合資會社ニ異ナルヿナカルベシ斯ノ如クスルトキハ人民個々ノ意ヲ以テ一株ナリ百株ナリ勝手ニ其株主タルヿヲ得テ同志ヲ募ルノ勞ヲ要セズ若シ株主タルヿヲ望ム者多キトキハ多分ノ株券ヲ賣リ望ム者少ナキトキハ少所ノ株券ヲ賣ルマデニテ株主ノ多少ハ毫モ鉄道ノ事業上ニ關係ヲ及ボスヿナシ或ハ株券賣出シノ景氣頗ル好ク遂ニ總數ヲ賣盡ス樣ノ事モアラバ其鉄道ハ全ク政府ノ手ヲ離ルヽヿヲ得ル譯ニテ最モ好都合タルベク唯一時ニ賣渡シ引渡シノ騷擾ナクシテ圓滑穩便ニ引渡シヲ了リタル事ト知ルベシ今ノ日本人ノ如キ協同シテ力ヲ致スノ習慣ニ乏シキ者ニ向テ鉄道ヲ賣渡サントスルニハ蓋シ此右ニ出ル便法ナカルベキナリ

雜報

○行幸　前号の紙上ゟ記せし如く　聖上ゟは昨十六日午前八時卅分仮皇居御出門ゟて御順路を濱離宮へ行幸往らせ給ひたり同日の御陪乘ゟは德大寺侍從長にして供奉の方々ゟは皇族を始め侍從、侍醫、宮内書記官等にて御苑内中島の御茶屋に於て流りの業を天覽在らせられ御獲物も澤山ありて皆宮中へ御持歸りに成り黃昏頃天機麗はしく還幸遊ばされたり

○行啓　皇后宮ゟハ昨十六日午前九時赤坂仮皇居を女官御陪乘にて御出門に相成り四ツ谷堀端通り同門を南へ麹町通り夫より半藏門を入らせられ小川町通り萬世橋を經て上野公園地へ御着に成れり同所には兼て御先着なる中山從一位を始め女官四名と福羽一等侍講、香川宮内少輔其他同省諸官吏ゟは一同御出迎ひとして音無門前ゟ出張して御馬車を招じ愛ゟ於て皇后宮ゟは御車ゟ召させられし後同公園内に今を盛りなる櫻花を御一覽ゟり同所御幕張中に暫時御休憩ゟりて競ち再び御馬車を繪畫共進會館の前より教育博物館前に向させ給ひ其より御道筋元の如く音無門跡廣小路仲町を經て向ケ岡彰生社へ着かせ給ひ同所に於て暫く御休憩ゟり夫より上野遊ゟり時正

○明宮御殿は兩三日前從長より

○英女皇　今週間を期し英國グラはするとな

○宍戸參事務仰付られ

○岩佐一等發して濱國君い官名を りしが特別由に聞く

○家督　東路通屬氏は五位難波美

○親櫻の實縣内務卿、觀花の宴を

○賀宴　來今度來着せ氏安着の賀國公使に

○歸朝　昨奏任御用掛御用之ゟり承性氏も同

○出張　海して山陰地

○出發見合行せるに付へ局務代理せたりと

○琉水掛長任御用係兩日歸京した代理を解ゐ

○警察諸員會を開くに付ハ某縣鉄道ノ實價何程ト先ヲ何人何會社ヲ論セズ所望ノ